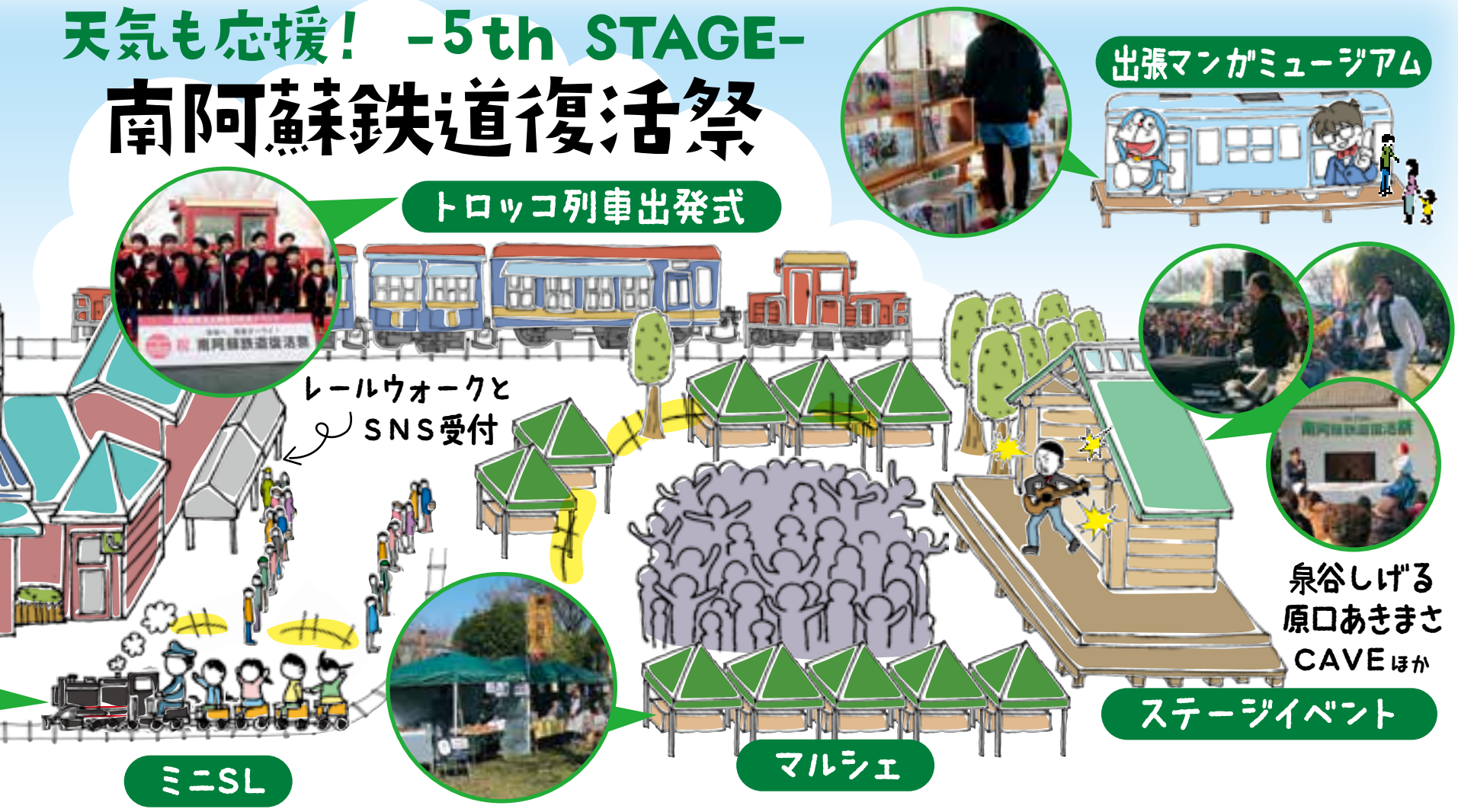
天気も応援！ -5th STAGE-
南阿蘇鉄道復活祭



澄み渡る青空が広がった3月11日（日）、高森駅で南阿蘇鉄道復興イベントが開催されました。この日は、東日本大震災から7年の節目ということもあり、東日本大震災の被災者に哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

南阿蘇鉄道株式会社社長でもある草村町長をはじめ関係者によるテープカットの後、高森保育園の園児の元気な合唱で勢いをつけ、小林鷹太（おうた）くんの吹く笛が鳴りひびくと、ゆっくり今シーズンのトロッコ列車が出発しました。

最初のトロッコ列車の乗客は、高森駅から中松駅までのレールウォークの参加者。普段歩けない線路内を歩けるとあって、大盛況。この日150人が参加しました。熊本市からの参加者は、「復興の後押しのため参加しました」と話しました。

また、昨年多くの来場者を魅了した「がんばれクマモト！マンガよせがきトレイン」が株式会社小学館の好意により今年も運行延長が決定したことに寄せ、日頃「肥後六華の會」や「MCC協議会」などで親交のある合志市から「出張マンガミュージアム」が協力。まんがラッピング列車の中にまんが本が100冊以上並び、子どもから大人まで車内でくつろぐ光景が見られました。

観光交流センターでは、新酒とふるさとの味まつりラストイベントが開催され、駅前通りは来場客が往来する姿が見られました。

新酒とふるさとの味まつり

南阿蘇鉄道高森駅から数百メートル離れた高森町観光交流センターでは、第30回新酒とふるさとの味まつりの千秋楽を迎え、多くの来場客であふれかえりました。

新酒3杯分のチケットが付いた木枡は飛ぶように売れていき、高森を代表する食のブースでは、どの店でも長蛇の列ができました。

開会式が始まり、新酒の樽酒を鏡開きすると、田上町議会議長の音頭で乾杯！

ステージに登場したのは、獅子舞。鮮やかな赤色の獅子と黄色の獅子がステージから降り、広場を練り歩き、邪気払いのため、次々と来場客の頭を噛んでいきました。迫力のある獅子が迫ると泣き出す子どもも。

砂を自由自在に操り表現するサンドアーティスト・CAVE（ケイブ）さんが高森中・高吹奏楽部員と合唱した南阿蘇鉄道の応援ソングは来場者を惹き付けました。

熊本市の花魁道中グループから有志6名による花魁道中では、高下駄で八文字の披露のほか、酒樽前で来場者にお酌するなどイベントに花を添えました。

ステージ上でラストを飾ったのは、豊前屋本店の大人気イベント味噌の詰め放題。限定40人の参加者は、競い合うように味噌のタワーを造っていきました。

この日、山村酒造合名会社は新酒・れいざんの4斗樽を14本用意し、盛況のうちに完売となりました。

❶「ん～・・・美味しいっ！」
❷ あっという間に売れた木枡
❸『南鉄支援』の中学生。地域に根ざした活動で頑張っています
❹ 優しく噛む獅子。でも、怖い！
❺ たんと飲んでおくんなんし